

交通

「みち」とともに発展してきた
海にも山にも都心にも、アクセスしやすいまち
八王子

今も昔も、みちとみちとが交わるまち。

— 甲州街道と国道16号、中央道と圏央道、鉄道網 —

■ 八王子の発展を語るなら、欠かせないのが「みち」。

幹線道路や鉄道が交差する、交通の結節点・八王子。

今は自動車が走る道路も、もともとは人が通い踏み固めた「みち」から始まりました。

江戸時代、徳川家康が全国につながる「五街道」のひとつとして、日本橋と甲府・下諏訪を結ぶ約200kmの甲州道中を整備。八王子は宿場町として発展し、毎週立つ「市」には多くの商人たちが取引に訪れました。

開国後の八王子は、横浜や江戸、そして山梨・長野を結ぶ「交差点」にあったことから、各地から集まった生糸を横浜に運ぶ「絹の道」を通じて、国の発展を支えました。

現在では、中央道と圏央道が交差する、首都圏広域ネットワークの要となった八王子。

都心へ30分足らず、首都圏の各主要都市まで1時間で移動が可能という利便性の高さから、先端技術産業や研究所など約1,400もの製造業が集積しています。

みちを動脈として人やもの・情報が行き交い、ビジネスの可能性あふれるまちへと変貌を遂げています。



■ アクセスの良さは、暮らしやすさに。

鉄道路線も大充実の八王子。合計「7路線」(中央線・横浜線・八高線・京王線・京王高尾線・京王相模線・多摩都市モノレール)が乗り入れ、市内にある駅は「21駅」(ケーブルカー駅を除く)。

始発で通勤できる便利さは、他のまちにない暮らしやすさとして評価されています。



ひと

江戸の番・千人同心、戦後の復興など、
まちの基盤をつくった人々の歴史を継ぐ
市民力の高さが魅力のまち
八王子

八王子の誇る市民力・地域力

—そのチカラのルーツとは—

江戸の守りを固めるために、八王子とその周辺に置かれた千人同心。警備や日光東照宮の火の番といった同心の仕事以外は、自ら土を耕し農耕で生計を立てる、半土半農の珍しい存在でした。私塾を設けて子弟に学問を教え、地域の歴史を編さんするなど、文化的な功績も知られています。

江戸時代は、八王子には藩が置かれておらず、代官の役所も江戸中期には引き払われたことから、町人が主体となったまちづくりが長い間行われてきました。消防組織も町人主体でつくられました。200年の時を経た今でも、まちには自主防災組織が活躍しています。

戦後の復興においてもその力は発揮され、義務教育となる新制中学校の新設は、保護者や市民からの寄附など、地元からの多大な協力によってなされたといわれています。
市民力・地域力が自慢の八王子には、こういった先人たちの自治力が受け継がれているのかもしれない。今も、その力が数字に表れています。

数字で見る市民力



※関東・関西の都市を対象に、住民のまちへの愛着や誇りを調査した「シビックプライドランキング 2018」(読売広告社)結果より。1位は港区、2位は文京区、3位は中央区。

21の大学等がある学園都市

—知の力と若いエネルギーあふれるまち—

約7,500人の教員が在籍し、約9万5千人の学生や約2,200人の留学生が在学する八王子。美術、理工、動物看護や美容まで、様々な「専門家」をまちづくりにどう活かすかが腕の見せ所。

18,000社の企業の力

—様々な産業で22万人が働くまち—

恩方の水産業からハイテク製造業まで、様々な産業が同居し、技や人的資源を持つ多数の「産業人」が存在するのも、八王子ならではの。

八王子市役所で働く醍醐味

何でもある、大きなまち八王子。
そんなまちで働く私たちは、どんなやりがいやプライドを持っているのでしょうか？
八王子市で働いてよかった、と思う「キラリと光るひとこと」です。



工夫を凝らした取り組みを実施し、全国に発信することで、
他の自治体を引っ張っていけるような役割を担える可能性があるところ。

大きな市なので、**多種多様な仕事**があるため、
次はどんな仕事ができるか楽しみがある。面白い職員が多い、気がする。

国や都への派遣研修制度があること。より広い視野で仕事ができます。
私も行かせていただきましたが、最新の情報を得られるとともに、「八王子市」の
お国自慢ができたのが思い出。八王子市を客観的に見ることができました。

「市民の苦情を受けるのが仕事」と考えていた私(たち)に、
「その苦情がなくなるようにすることが仕事」だとアドバイスをいただいた。
そんな素敵なお上司がいること。

「海がないだけ」まさに、このとおり。港湾管理業務がないだけで、
都市からまちから山から自然から、すべてに係る業務がある
のが最大の魅力でしょう。

人口規模、財政規模が大きく、多様な側面があり、
様々な課題に挑戦できる市役所だと思う。

都市の要素と、自然豊かな田舎の要素を併せ持つことは、大きな魅力です。
都市機能を維持しながら、豊かな自然を残し、さらに増やしていけたら最高だと思います。

面積も人口も大きな市、まとまらないところ、まとまるはずがないところ、
まとまる必要もないしできない。個性が豊かなところが素晴らしい。

行政も個性豊かな対応が必要なところ。

地域性を大事に自覚して仕事を創っていくところ。

市民の八王子愛の強さ

地元愛、誇りがここまで強い地域はなかなかないです。

中核市としての権限と、市民に一番身近な基礎自治体であることを活かし、
市民の声を直接聴き、それを大胆に仕事に反映することができる。国にも近く、市民にも近い。
また、中核市や多摩のリーディングシティとして、よい取り組みを行えば、都内自治体、ひいては全国の中核
市の規範にもなりえる。

人口も多く、国籍・出身地・文化も違い、
市の面積も大きいので、その町々の暮らしも様々で、
市民とふれあうと多くの発見があるところ。

地域に多様性があり、柔軟な思考がないと事業が上手くいかないこと。
地域課題を解決するための資源が豊富であること(人、場所、ネットワーク、自然等)。
在学生が地域づくりで大きな力になること(学園都市)。

職員数も多いので共通意識を持つことが難しいが、
見方を変えれば多様な人材がいることで、
シナジーやイノベーションを生み出す環境があると思う。

八王子市は、長い歴史、豊かな緑、特色のある企業の立地等様々な特徴、資源がある。
また、山間部、中心市街地、ニュータウン地区など、多様な街の姿を持っている。
その多様性を活かして、八王子の魅力をアピールしたり、事業を考えたりできるのが、
八王子市職員の醍醐味である。

Hachioji



知ってると思わず話したくなる！

ハ王子トリビア

きっと役立つこんなこと、
意外と知らないあんなこと。
使える豆知識を集めました。



Trivia



大きいことはイイことだ！

人口も面積もBIGなまち・ハ王子

「モアイ像」＝「ハ王子」＝「砂丘」？

ハ王子を語るなら、やっぱりスケールの話は欠かせません。
市民に身近な基礎自治体でありながら、
仕事の規模も、幅の広さも桁違いです。

人口 およそ**58万人**
鳥取県の人口(約55.2万人)に近い。

面積 **186.38 km²**
だいたい南米チリのイースター島と同じくらい。
覚えておけば何かの役に立つかもしれません。

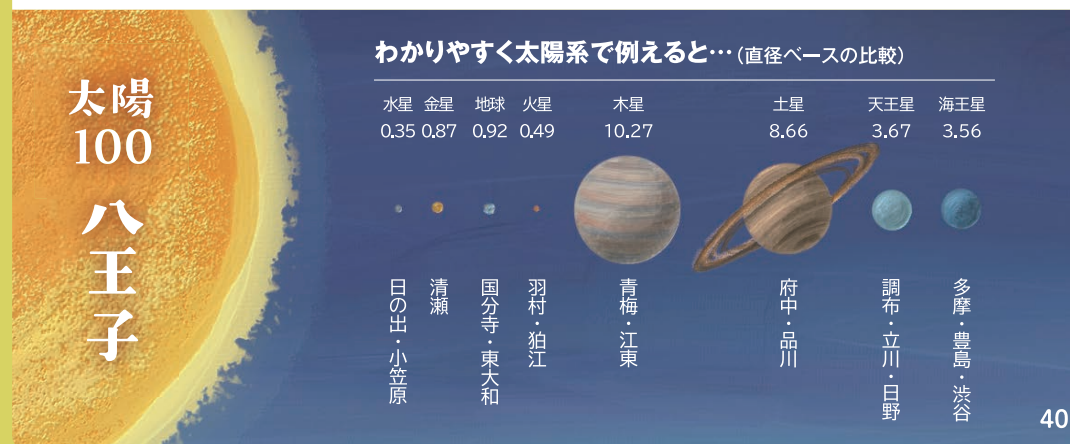


太陽のまち ハ王子

例えば、仕事のスケール＝「人口 × 面積」と仮定し
ハ王子を100として比較すると…

23区では、世田谷区(49.76)、大田区(41.21)、足立区(33.55)
市町村では、町田市(28.87)、青梅市(13.02)、府中市(7.15)となります。

つまり、
**他市の何倍もでっかい
仕事ができるんです！**





“世界一の山”高尾山

ハ王子といえやっぱ高尾山。1,300年近くの歴史を持ち、
年間300万人の登山者数を誇る世界一の山が私たちに語りかけるもの

なぜ、世界一の山になれたのか。

高尾山は、平成21年3月、「ミシュラングリーンガイド・ジャポン」に最高ランク三ツ星の観光地として取り上げられました。東京から40kmという近さにもかかわらず、大自然と独自の歴史・文化にふれることができる点が高い評価につながったといわれています。

以来、海外からの観光客が増加し、今や年間300万人を超える登山者数世界一の山となりました。

ミシュランの観光地選定基準

- ・旅行者がその観光地を訪れた時に受ける第一印象
- ・美観
- ・その場所の知名度
- ・作り物ではない本物としての魅力と調和
- ・文化財の豊かさ、レジャーの充実ぶり
- ・旅行のしやすさと利便性
- ・ユネスコの世界遺産などの公的評価
- （施設整備、アクセス、維持管理など）
- ・芸術品や史跡の固有の美術的価値
- ・旅行者の受け入れの質

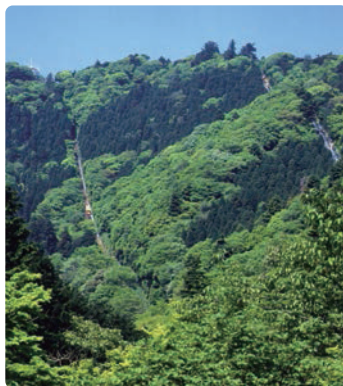
環境保護の先駆け？北条氏照たちが残した宝物。

高尾山の開山は、今から約1,300年前（奈良時代中頃）に、聖武天皇の勅命をうけた高僧・行基によってなされたといわれています。以来、山岳信仰の霊山として、永きにわたり繁栄してきました。

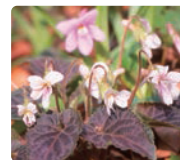
高尾山薬王院は「殺生禁断」を第一義に、むやみに草木を切ることを厳しく戒めてきました。

戦国時代になると、北条氏照が戦略上の拠点であった高尾山の「竹林伐採禁止の制札」を出し、江戸時代には徳川幕府が財政確保のため森林を保護しました。

時々の為政者が守ってきた、高尾山の豊かな自然。私たちにも、このかけがえのない宝をどのように後世につなげていくのかが問われています。



昆虫5,000種、植物1,600種が息づく豊かな山



タカオスマイレ



タカオケンモン

高尾山は、大阪の箕面山、京都の貴船山と並ぶ日本三大昆虫生息地。その数は約5,000種ともいわれており、「タカオケンモン」や「タカオメダカカミギリ」などタカオの名の付く昆虫も発見されています。

また、植物もイギリス全土に匹敵する1,600種類以上が確認されており、「タカオスマイレ」は高尾山を代表するスマイレとして有名です。

「ごみ持ち帰り運動」発祥の地

かつての高尾山の悩みは、登山者の持ち込むごみ。ごみとの戦いは、昭和の登山ブームから始まりました。

当時、薬王院、高尾登山電鉄と地域が一体となって、自主的な清掃活動を始めたものの、山頂の集積場には、2tトラックでも処分しきれないほどのごみが。そこでついに昭和50年頃、山のごみ箱を撤去し、日本で初めてごみの持ち帰りを登山客に呼びかけるようになったのです。

そのマナーは年々浸透し、高尾山は本来の美しさを取り戻しました。こうした美化活動も、ミシュラン三ツ星獲得の鍵になったといわれています。



高尾駅、昔の名前は…

実は高尾駅は、昭和36年まで「浅川駅」という名前でした。改名の目的は、ズバリ観光地高尾山の宣伝のため。当時の責任者は、「改名により東京発の電車は『高尾行』となり、金銭では比較できない宣伝になる」とコメントしています。

この食欲さ、見習いたいですね。



高尾山の見つけ方

ポイントは、市内から見て左の稜線。高尾山ならではの巨樹が、遠くからでもギザギザに見えるんです。山の上になっている電波塔や、時期によってはピアガーデンの明かりも目印に。

